

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 10年7月 ～踏ん張りを見せる生産活動

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

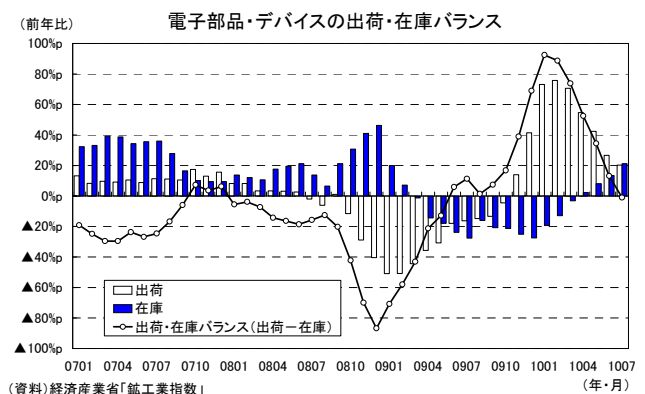
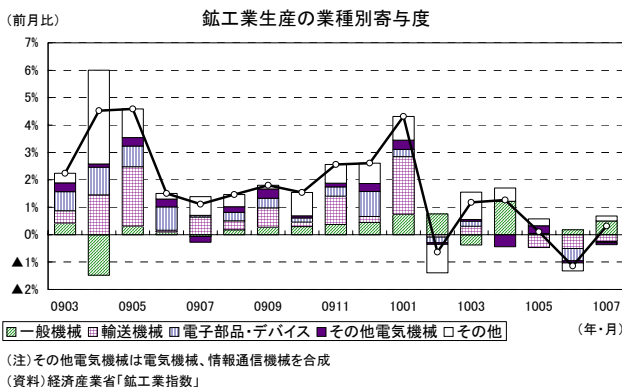
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 7月の生産は市場予想を上回りプラスに

経済産業省が8月31日に公表した鉱工業指数によると、7月の鉱工業生産指数は前月比0.3%と2ヵ月ぶりに上昇し、事前の市場予想（ロイター集計：前月比▲0.2%、当社予想は同0.1%）を上回った。出荷指数は前月比▲0.1%と2ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲0.5%と4ヵ月ぶりの低下となった。

7月の生産を業種別に見ると、このところ在庫積み上がりの動きが見られる情報通信機械、電子部品・デバイス、輸送機械が前月に続き低下（それぞれ前月比▲0.9%、▲0.5%、▲1.5%）するなど、速報段階で公表される16業種中、10業種が前月比で低下（上昇は5業種、横ばいが1業種）したが、設備投資の持ち直しを反映し一般機械が前月比4.3%の高い伸びとなったことなどから、全体ではかろうじて前月比プラスを確保した。

在庫指数は全体では4ヵ月ぶりに低下したが、一部の業種では在庫が大きく積み上がっている。特に在庫の積み上がり幅が大きいのは液晶テレビ、DVD-ビデオなどが含まれる情報通信機械で、7月の在庫指数は前年比90.7%の急上昇となった。また、電子部品・デバイスの出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は09年5月以来、14ヶ月ぶりに悪化に転じた。IT関連財については当面在庫調整圧力の強い状態が続くことが見込まれる。

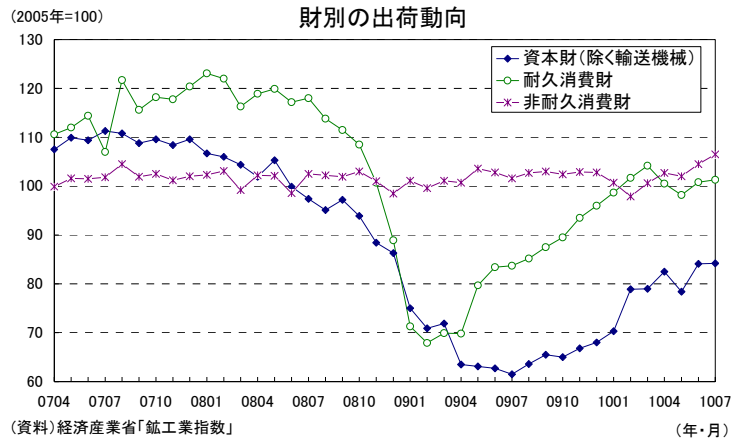


財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は1-3月期の前期比14.3%、4-6月期の同7.4%の後、7月は前月比0.1%となった。7月単月ではほぼ横ばいとどまったが、7月の水準を4-6月期と比べると3.1%高い水準にある。GDP統計

の設備投資は09年10-12月期以降、3四半期連続で増加しているが、7-9月期も増勢が維持される可能性が高い。ただし、資本財の高い伸びには好調な輸出の影響が含まれているため、国内の設備投資動向を考える上では、その部分を割り引いてみる必要がある。

消費財出荷指数は1-3月期の前期比2.4%、4-6月期の同1.6%の後、7月は前月比1.0%となった。耐久財が前月比0.5%、非耐久財が同1.9%とともに上昇した。

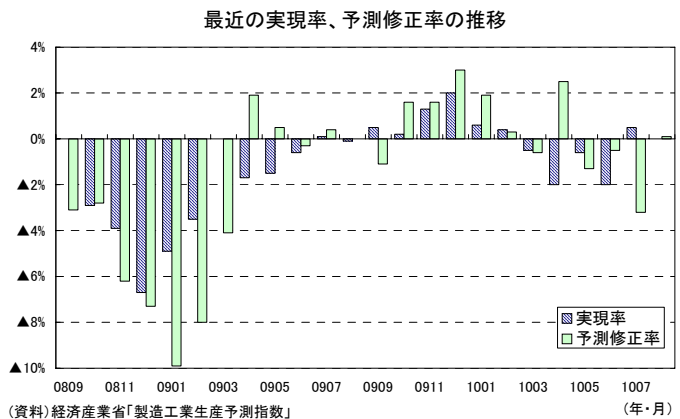
耐久消費財は政策効果一巡に伴い4-6月期には前期比▲1.7%と5四半期ぶりに低下したが、エコカー補助金終了前の自動車の駆け込み需要の影響もあり、7-9月期は再び上昇に転じる可能性が高い。GDPベースの個人消費は、4-6月期は前期比0.0%の横ばいにとどまったが、7-9月期は比較的高い伸びとなることが予想される。



2. 9月までは増産計画

製造工業生産予測指数は、8月が前月比1.6%、9月が同0.2%となった。生産計画の修正状況を示す実現率(7月)、予測修正率(8月)はそれぞれ0.5%、0.1%であった。実現率がプラスとなるのは5ヵ月ぶり、予測修正率がプラスとなるのは4ヵ月ぶりである。

予測指数を業種別に見ると、好調が続いている一般機械は、8月が前月比2.1%、9月が同2.6%と増産が継続する見込みとなっているが、3ヵ月連続で低下した輸送機械は8月、9月も減産計画となっている(8月:前月比▲0.6%、9月:同▲0.9%)。



7月の生産指数を8月、9月の予測指数で先延ばしすると、7-9月期の生産指数は前期比0.7%の上昇となる。6月の速報値が発表された時点では7-9月期の鉱工業生産は6四半期ぶりの減産になるという見方も多かった。しかし、7月の速報値が市場予想を上回り、8月、9月の予測指数も強めのものとなったため、4-6月期の前期比1.5%からは減速が避けられないものの、7-9月期も増産が維持される可能性が出てきた。

円高、株安が進んでいることもあり、景気に対する悲観的な見方が広がっているが、鉱工業生産をはじめとした実体経済は足もとでは比較的底堅い動きとなっている。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。